

# ユニバーサル型大学のリメディアルの在り方・考 (～Yちゃんの事例から、可能性をさぐる～)

鷺北 貴史<sup>A</sup>,

## 1. はじめに

昨年度の湘南工科大での発表で、Yちゃんという成績不振の女子学生が「公務員になりたい」とカミングアウトして、それに向けて小学校ドリルから特訓をやった結果、東京消防庁の筆記に合格した事例を報告しました。発表を聞いてくださった方から、「結果がどうなったか報告が聞きたい。」というご意見や、「どのような指導をしたのか、具体的に聞きたい。」というご質問がありました。本発表は、その二点に回答をすることで、リメディアル教育の在り方に、一石を投じることができると考え、この事例から多くの「勉強嫌い」の学生に向かい合う方法論のひとつを示すことを目的として行うこととします。

## 2. Yちゃんの結果発表

昨年九月に、二次試験があり、Yちゃんは面接で不合格となりました。  
またもや泣きながら電話です。「落ちた・・・なんでここまで残ったのに・・・悔しいよ。」  
30分くらい泣いたあと、彼女から決意の言葉が出ました。「もう、受かるまでやる。半年後に県警の春募集があるから、それに向けてもっとがんばる。あしたから、また指導してください。わっしーだって4回落ちてるんだから(注) こんなもんじゃ負けられないから。」  
そして、再び勉強を始めました。今回は迫力が違いました。約400人出願の試験で、筆記合格者30人の中に入り、さらに面接に向けて特訓を行い、A県警の最終合格者9名の中に入れたのです。「やったー！ついにやったよ、わっしー！ホントに頑張ってたよ。夢ってがんばればかなうんだよね。」今度は、私が号泣しました。喫煙所での出会いから、何度も「わたしには無理だあ」と泣きながら数学を解いていた彼女の姿が、走馬灯のようにめぐりつつ、合格の喜びを分かちあいました。

-----  
A: LEC東京リーガルマインド大学 総合キャリア学部  
基礎学力支援センター

## 3. わっしー、B大学って頭いいの？

最終合格者9名が、制服の採寸のために集められた時、出身大学の話になったそうです。

「みんなの話聞いてたらさ、B大学・・・C大学・・・なんか聞いたことある名前の大学ばかりだったよー。でね、わたしが聞かれたから、LEC大学って答えたらね、みんな笑うんだよね。」

「でもさ、おまえ、そんな連中と同じ試験受けて受かったんだから、自信もっていいよ。調子こいていいからさ。」

「そうだよ、わたしすごいよね。うん。・・・」

でもわっしーさ、B大学って頭いいの？」

偏差値や勉強とは無縁に生きてきたYちゃんにとっては、ランキング表の上位に載っている大学も、聞いたことがある程度の認識で、自分がどれくらいの難関試験に合格したのかピンと来てない様子でした。(彼女が挙げた大学は、偏差値ランキングでは上位の大学ばかりでした)

「あー、ひとりだけバカいたかも、D大学！」

「おまえ、そこは、私大だとベスト10に入るレベルだつてばよ。」

「えー、うそー、わたし知らなかったー」

そんな会話の中から、自信をつけていき、4月に警察学校に入学となりました。

## 4. 辛いけど、もったいなくて辞められないよ

LEC大学の進路センター職員や教員の間では、「合格したのはいいけど、警察学校の厳しい訓練に耐えられるのかな？いつまで持つんだろう？」そんな声があがっていました。私自身も、その点が不安だったのです。そんな中、Yちゃんから久しぶりに電話がありました。「辛いよー、すごく厳しい。わたし、体小さいから柔道とか全く勝てない。黒帯取らないといけないんだよ。しかも、やっぱ、頭いい大学出てる子は、勉強もできるよー。法律とか、わたしがすごく苦労して覚えるのに、簡単に覚えちゃうんだよ、みんな。」

「じゃあ、辞めるか？」

「何度、辞めようって思ったかわからないけどさ、あれだけ頑張っ合格したのにさ、なんか、もったいなくて辞められないんだよ。それに、いいこともあったし。」

「どんなこと、あったのよ？」

「あのね、派出所で研修してたらね、小さい子がね、『猫が挟まれてるから取ってください』って言ってきたの。それで、取ってあげたらね、『おまわりさん、ありがとうございます』って言ってくれたの。もう感激しちゃって、これが警察官としての初仕事だったけど、一生忘れないと思う。あと、おばあちゃんがね『暑いのに、偉いわねー』って言ってくれたの。地域に密着する公務員が目標だったから、すごく、現場に出るのが楽しみになって・・・もう、最後まで、頑張れる気がしてるんだ。この前の試験だって、真ん中くらいの成績だったんだよ。めちゃがんばって覚えたんだから。」

### 5. Yちゃんの事例から、教師として学んだこと

この事例から、自分が教師として学んだことがいくつかありました。

一つ目は、「教師によるラベリングはしてはいけない」という点です。これは、自分は常に心がけてきたつもりでしたが、正直、「警察学校を途中で放り投げてしまうのではないかと不安に思っていました。実際に様々な葛藤の中で、Yちゃんは、警察学校の中での努力目標（黒帯をとる、試験で少しでも上位に行く）が設定され、それに向かっていく姿勢が出てきた事、また現場での体験から、警察官としての使命や喜びを感じて、卒業後のやりがいを見出した事で、彼女は継続する決断をしています。

二つ目は「もったいなくて辞められない」という言葉です。上位校ほど退学者が少ない理由はここにあったのかもしれませんが、「苦勞して合格した＝辞めたらもったいない」というならば、大学入学後に目標を設定し、学生に努力する喜びを与え（自己効力感を持たせる）そのことで、退学者の減少が達成可能ではないか？そんな気づきです。

三つめは、自分の教育方針の確立です。目標と現実のギャップを埋めるために、どんどん基礎から手助けをして階段を一気に駆けあがらせていく。この手法で、数名公務員合格者を出しました。ともすると、「基本的

なドリルを反復させる＝リメディアル教育」と思われがちですが、高い目標値があるならば、それに到達させる手助けを教師が行っていけば、それは達成可能であると確信が持てたのです。

### 6. 螺旋状 scaffolding の実践がカギだ！

教育心理学で、scaffolding が学習のための足場作りならば、その足場を目標に向けて、どんどん高く積み上げていけば、一問一問、解けた実感を持たせることが可能になります。具体的には次のような手法です。

問題集の  
解答は  
わかっている。  
↓ 手順を  
つめる。

$$\begin{aligned} 8x^{-0.5} - 2x &= 0 && \leftarrow \text{両辺を2で割る} \\ 8x^{-0.5} &= 2x && \leftarrow x \text{を右辺に移項する} \\ 8 \frac{1}{x^{0.5}} &= 2x && \leftarrow \text{マイナス乗は逆数} \\ 8 \frac{1}{\sqrt{x}} &= 2x && \leftarrow 0.5 \text{乗はルートになる。} \\ \left(8 \frac{1}{\sqrt{x}}\right)^2 &= (2x)^2 && \leftarrow \text{指数の説明} \\ 64 \frac{1}{x} &= 4x^2 && \leftarrow \text{両辺を二乗する} \\ 64 \frac{1}{x} \times x &= 4x^2 \times x && \leftarrow \text{両辺に} x \text{をかけて} \\ &&& \leftarrow \text{左辺から} x \text{を消す} \\ \text{である。⑥より、} &&& \leftarrow \text{だから、こうなる。} \\ x^3 &= 64 && \\ \text{となるから、} &&& \leftarrow \text{となるから、} x = 4 \text{である。} \end{aligned}$$

市販のテキストでは、基本ができている前提で執筆されているため、解答を読んでも全く理解ができないのです。それならば、実力と解答のギャップを教師が埋めていってあげれば、目標到達は可能になるのです。螺旋階段のように、次から次へと新しい足場を作っていってあげる<螺旋状 scaffolding>の実践です。

一問理解させたら、同じ問題を何回も反復させます。Yちゃんの合格をきっかけに、LEC大ではフリーターをやっていた卒業生が公務員を目指して勉強を始めました。短期間で射程距離まで近づいてきました。

「ひとりでも多くの若者の可能性を広げていきたい。」私は、きょうも基礎学力の魔術師として<魂の講義>を教壇で絶叫し続けています。

注) 私自身、大学院受験を4回落ちて、5回目で合格している、これを学生達は「わしイズム」と呼んでいる。